

明治36年岐阜説教所市街地移転の頃の風景
『岐阜部落開基80周年記念誌』掲載・抜粋

(略) 岐阜説教所(注:現在の常楽寺) 駐在布教師加藤徹玄は転勤を命じられ、後任清原得順が着任したが、岐阜よりも地の利を得た常呂移職の議が出て、宇常呂新市街の現常楽寺の位置に移転したが、林間に木造柂拭きに一字が建ったのみで付近には家もなく、現在の町役場が木の間から見え隠れする閑静な聖地で、常呂市街とは砂丘を隔てており、現道道北見常呂線もその頃は人馬がようやく通れる程度の道であった。(略)

*注:常楽寺の年表

明治33年5月	岐阜地区に真宗本願寺派布教所設置
明治36年3月24日	真宗本願寺派岐阜説教所、常呂市街地に移転
明治36年4月11日	浄土真宗本願寺派紫雲山常楽寺の公称申請
明治37年12月12日	浄土真宗本願寺派紫雲山常楽寺の公称認可
明治38年2月	常楽寺本堂庫裡新築落成

*注:戸長役場の年表

明治28年8月20日	戸長役場、常呂小公園(注:現在の中央児童公園)北寄りの高地に移転地の市街区画払下げを受け、新築。
明治30年7月15日	常呂外6ヶ村戸長役場より野付牛村・少牛村を分離。 常呂村4ヶ村戸長役場に。
明治38年	常呂村4ヶ村戸長役場、現在地に移転。

(注:文章のままだと現在の中央児童公園にある忠魂碑あたりに戸長役場があり、木々の間から見え隠れしたことになるが、常楽寺は少し低いところであり、見通し具合を考えると、明治38年に戸長役場が移転した頃の風景とも推測できる。なお、明治39年には旧常呂町国保病院付近に常呂病院開院。少しずつ新市街地を形成していった。)